

赤城やまなみチャレンジキャンプ

～目指せ！赤城全山制覇！～

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、8月16日（土）～23日（土）の昨年よりも1日長い7泊8日の日程で、教育事業「赤城やまなみチャレンジキャンプ ～目指せ！赤城全山制覇！～」を開催しました。

この事業は、豊かで便利な生活の普及により生活体験や自然体験が不足している中、仲間と一緒にテント泊をしながら赤城の山々を巡り、困難に立ち向かう心や仲間を思い協力する心、自然に対する畏敬の念や周囲の人への感謝の気持ちを育むことをねらいとして開催されました。具体的には、赤城山を構成する主要な七山（黒檜山・駒ヶ岳・鈴ヶ岳・地藏岳・長七郎山・荒山・鍋割山）を踏破することを目標とし、7泊8日で4か所のキャンプ場を移動しながら行われました。参加対象は小学4年生から中学3年生までで、群馬県を中心に関東近県から27名（男14名・女13名：小学生23名・中学生4名）の参加がありました。

【事前説明会及び交流会】

8月3日（日）をキャンプスタートの日として、参加者と保護者全員に集まっておきました。初めに、参加者・スタッフ・ボランティアとの顔合わせを行い、事業の趣旨説明を行った後、保護者への説明会と並行して参加者とスタッフ、ボランティアによる交流会（レクリエーション）を行いました。はじめての参加者と2度目の参加者の温度差をなくすことと、当日を迎える緊張を和らげることをねらいとして実施しました。

【1日目】テーマ「冒険への準備をととのえよう」：ざわざわ森泊

初日のキャンプ地となる「ざわざわ森」にて、キャンプがスタートしました。事前の交流会の効果もあり、あまり緊張する様子もなく仲間づくりのゲームや班での活動をしていくことができました。この日は、キャンプの準備として、テントの立て方や、地図やコースの見方、班装備や個人装備の確認、個人や班の目標決めなどをしました（行動作戦会議）。

夜には、くまさん（所長）の「手作り餃子」に舌鼓を打った後、みんなで近くの日帰り温泉に出かけました。スタッフも含めみんなと一緒に風呂に入ることでお互いの距離が一段と縮まりました。



【2日目】テーマ「歩くことに慣れよう ～赤城の秘境を訪ねるコース～」

：おおさる山乃家泊

いよいよ山歩きスタート。まずは、落差30mの赤城の大瀑布「不動大滝」を経て、2日目の宿泊地である「おおさる山乃家」を目指しました。

登山の初めに赤城神社に寄って赤城全山制覇の成功を祈願しました。滝へと続く山道は、キノコや木の実があったり、急な片斜面に少し慎重になりながら進んだり、沢登りをしたりと、山道の変化を楽しみながら進みました。そして不動大滝の大迫力の光景に思わず「おお～！」と感嘆の声が漏れ、滝の飛沫を浴びたり、ぎりぎりまで近寄ったり、冷たい沢の水に足を浸したりして自然の心地よさを満喫しました。



【3日目】テーマ「あせらずゆっくり一歩ずつ ～赤城の峰に行く、

一気に山頂へコース～」：前橋市赤城少年自然の家泊

この日は、赤城山の麓から一気に峰（つつじが峰）に登り、山頂へと向かうコースです。毎年多くの参加者がこの日が一番きついと言っていて、ひたすら登り坂が続き、しかも熊笹が生い茂っていたり、急な斜面が続いたりすると正に試練のコースです。キャンプ序盤の山場となりました。昨日の楽しいハイキング気分から一転、登山の厳しさを実感した子も多く、心が折れそうになる場面もありました。そんな時、キャンプソングを歌ったり、声を掛けたり励ましなが、なんとか一つ目の頂上の長七郎山を登り切りことができました。途中疲労により班の雰囲気が落ち込んでしまったり、夜にはホームシックになる子もいて、それぞれの抱える問題が浮彫りにもなってきました。



【4日目】テーマ「自然の素晴らしさを満喫しよう！」：前橋市赤城少年自然の家泊

今回はじめて行った地藏岳への早朝登山は、朝3時に起き満点の星空を見上げ出発しました。天気にも恵まれ山頂からは、めったに見ることのできない雲海から登る御来光を見

ることができました。その瞬間どこからともなく「わー!」「きれい!」の声が湧き上がり、目の前にある自然の美しさ、神秘さに心奪われました。

この日の午前に行った大沼でのカッター訓練は、参加者スタッフが声を出し合い一つの目標に向かって艇を進ませることで、後半の登山に向けて全員の気持ちを一つにする良い機会となりました。午後は、大沼の湖畔の木陰で昼寝をしたり、湖畔をのんびりと散策したり、仲間とおしゃべりしたりしながら過ごすことで心身ともにリフレッシュさせることができました。



【5日目】テーマ「チームで歩こう山から山へ 鈴ヶ岳～出張山～薬師岳～陣笠山コース」
：前橋市赤城少年自然の家泊

ここまでは、全体で一緒に歩いていましたが、この日からは班ごとのペースで地図を読みながら登山をすることになります。班としての活動や行動も、だんだん班付きのカウンセラー（スタッフ）の指示から、自分たちで決め、考えて動けるように移行していきました。

この日のコースはアップダウンの激しいコースで、年齢や体力差が心配されるコースでした。子どもたちは班のペースを確認しながら岩場、峠、稜線歩きなどの山が見せる自然の表情を楽しみながら歩いていました。班ごとに歩いたこともあり、それぞれの班や個人のカラーもより目立ってきました。途中お腹が痛くなってしまった子に2人の子が付き添いゆっくりと歩いてあげる場面も見られました。

昼食後ここからは班ごとに出張山コース、薬師岳コース、陣笠山コースを選択して進む予定でしたが、天候がにわかになり、最短のエスケープコースを急ぎ下山することとなりました。ペースが一段と上がり、きつい登りが続く場所もありましたが、それまで「疲れた」「水飲みたい」と言っていた子も弱音を吐かず、無事にキャンプ地まで到着することができ、逞しさを感じました。



【6日目】テーマ「チームで挑戦だ ～赤城山最高峰と最高の眺めを手に入れるコース～」

：前橋市赤城少年自然の家泊

赤城全山制覇も後半に入り、この日は日本百名山に数えられる、赤城山最高峰の黒檜山に挑戦するコースです。班ごとの山歩きの中で、歩くペースをだれに合わせたらよいか、どんな並び順で歩くのがいいか、役割分担どうすればいいか工夫が見られてきました。クイズやしりとりで楽しみながら歩く班、キャンプソングを歌って元気を出す班、また足をけがしてしまい登山に参加できなくなってしまった仲間の名前を、湖畔に響き渡る声で呼び合う光景が見られ、班の仲間が一体となって山登りに挑戦する姿がより鮮明になってきました。



【7日目】テーマ「全員でゴールを目指そう～ラストは修行道！？一路ふもとへコース～」

：国立赤城青少年交流の家泊

赤城全山制覇としてのコースは今日が最終日です。荒山と鍋割山を経て、交流の家までのロングハイクです。ここに至るまで、個人や班で様々な問題が表出てきました。個人の我がままや体調不良、班での問題に悩み、その都度仲間と話し合い支え合い、それを乗り越えることで仲間とのきずなを深めてきました。この日は初日に渡した「やまなみチャレンジキャンプ」のTシャツをみんなで揃って着てスタートすることとなりました。最終日は、これまでで一番長い距離でしかも二つの山頂を目指すという行程です。疲れ切った体で最後時間内にゴールできるか心配しましたが、7日間のキャンプを経て育てたチームワークと逞しさと長い道のりも、一人も欠けることなく全員がゴールすることができました。ただ、個人の強い思いとして一番でゴールしたいと思っていた子が、その目標を達成できないとなった時に、気持ちが切れてしまい班から離れ、一番後ろをスタッフと2人での最後のゴールとなってしまいました。その後、本人から「最後の夜を班のみんなと一緒に過ごしたい」との申し出があり、班員もそれを受け入れることができました。その日の夜は、バイキングの食事、大浴場を満喫し、レクレーションをした後にキャンプ初の布団でぐっすり休みました。





【8日目】テーマ「八日間の冒険を締めくくろう」

長かった8日間、過ぎてしまうとあっという間でした。最終日は班毎に8日間を振り返り、お昼にはバーベキューパーティーで最後の食事を楽しみました。出発式では、各班の振り返りの発表を行い、最後に8日間の思い出のスライドショーを見てしめくくりました。解散時には、みんな離れ難く、涙する姿もみられました。キャンプに参加したきっかけは様々でしたが、最後はみんな逞しく晴れ晴れとして、確かな自信を手に入れた8日間となりました。



まとめ

ゴールの時には、充実感に満たされた子どもたちの様々な表情がありました。笑顔の子、涙を流す子、座り込んでしまう子、お互いに抱き合って喜ぶ子ども達。そこまでの過程では、毎日8～9時間の登山からくる疲れやストレス、我がままなどから言い合いをしたり、班の雰囲気が悪くなったりといろいろ大変なことがありました。その都度話し合ったり、仲間やスタッフの支えもあり絆を深めることができました。最終日の出発式では一人一人の決意の言葉が充実した表情でのべられました。この8日間で、苦しいこと辛いことを含め子どもたちは様々な体験をしました。そして、「赤城全山制覇！」を胸に新たな決意で日常生活へと戻って行きました。きっとこれから訪れる困難なことにも勇気をもって立ち向かってくれる事でしょう。

担当：企画指導専門職 新井 義之